

天 極 星

この星は人生にたとえますと、死を迎える時代、それが天極星の世界なのです。
人間は、いつの日にか死への旅路につかなければなりません。喜怒哀楽、さまざまな人生ドラマの終局であるのが天極星の世界です。

死は悲しいものです。喜びも・恨みも・憎しみも・感謝も、すべて水の流れの様に消えていくのです。
この瞬間において、人間はすべての役割から解放されて、「無」で表される「自由」が与えられるのです。

天極星の世界は、肉体も精神もすべて無です。そして時間はすでになく、あるのは無限に広がる空間だけです。この死の瞬間における世界が、陰陽の差を消し、善悪の差・上下・貴賤、ときには親子・きょうだい、差さへ消してしまう、一次元構成の空間を形成するということになるのです。

この一次元思考法は、あらゆる事象に対し、格差・区分をしない感覚をもち、自由な思考回転ができる能力を有するのです。

この純粋な感覚は、他に類を見ません。また宗教に関係なく無の感性がよく未来を予測しますが、その神経は天胡星とは違い現実を超越しています。それが時として靈感作用となり得る能力を持たせることになるのです。

■**初年運**(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

生れてから成人に達するまでの初年運をみます。主として子供の頃に現れる性格や希望が現われますが、この星は青年になる迄のものの考え方や性格づけが発揮されるとともに、本人一生の性格として持ち続けられる星でもあるのです。三つ子の魂、百まで…のたとえで子供のころの性格は大人になっても消えるものではありません。

●人体星図に天報星が**二つ以上出ている人**は、

■**中年運**(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

青年期から壮年期にかけての運勢を算定します。人生のアイデンティティ（役目意識）はここに算出された星から生れます。また職業意識や社会観なども、この星から生まれると云っても過言ではないでしょう。

■**晩年運**(人体星図の右足の位置に割り出された星です。)

晩年期の運勢を算定します。人生の究極においてどのような人間性と悟りが持てるかをこの星で量ります。算命術では、この位置を「本元」とも言いますが、それは人生を生き抜いて来た社会に対する役目や価値を見つけ出す大切な場所という意味からです。

落ち着いた老後が暗示されています。どちらかと言えば、可愛い“お年寄り”といったタイプ。

孫とは最高にイキが合います。何事も子供達や嫁さんたちのしてくれることに文句一つ言わず不満をこぼさない老人として余生を送る穏やかな老後の生活振りがうかがえます。しかも、天性として高い悟りの境地をそなえているのでたとえ天涯孤独になっても周囲の人達から面倒をみてもらえる徳のある人となります。

人体星図の反対側の星が、天将星か天禄星になっていないか見て下さい。もしも、その星が出て行人は、一生を通じて左足に怪我をするか、患いやすくなります。この場合治療も長引く事になりますから注意して下さい。